

様式6（第15条第1項関係）

平成30年4月9日

独立行政法人
日本学術振興会理事長 殿

研究機関の設置者の所在地	〒920-1192 石川県金沢市角間町	
研究機関の設置者の名称	国立大学法人金沢大学	
代表者の職名・氏名	学長 山崎 光悦 (記名押印)	
代表研究機関名及び機関コード	金沢大学	13301

平成29年度戦略的国際研究交流推進事業費補助金
実績報告書

戦略的国際研究交流推進事業費補助金取扱要領第15条第1項の規定により、実績報告書を提出します。

整理番号	S2901	補助事業の完了日	平成30年3月31日	関連研究分野 (分科細目コード)	病態医科学 (7906)
補助事業名（採択年度） 慢性炎症と線維化をきたす生体ネットワークの解明とその制御の 国際研究拠点形成（平成29年度）				補助金支出額（別紙のとおり） 24,165,636円	
代表研究機関以外の協力機関 なし					
海外の連携機関 ハーバード大学ブリガムアンドウィメンズ病院、 ハーバード大学ジョスリン糖尿病センター シドニー大学ジョージ国際保健研究所					
1. 事業実施主体					
フリガナ 担当研究者氏名	所属機関	所属部局	職名	専門分野	
主担当研究者 ヤマモト ヤスヒコ 山本 靖彦	金沢大学	医学系	教授	生化学・ 病態医化学	
担当研究者 ワダ タカシ 和田 隆志	金沢大学	医学系	教授	腎臓学・ 臨床検査医学	
カネコ シュウイチ 金子 周一	金沢大学	医学系	教授	肝臓病・ 消化器病学	
イノウエ ヒロシ 井上 啓	金沢大学	新学術創成研究機構	教授	代謝・糖尿病学	
フルイチ ケンゴ 古市 賢吾	金沢大学	附属病院	准教授	腎臓学	
計5名					

フリガナ 連絡担当者	所属部局・職名	連絡先（電話番号、e-mailアドレス）
---------------	---------	----------------------

カ ミ ノ 神野	タ カ ノ リ 高慶	研究推進部研究推進課 学術調整係・係長	Tel:076-264-5034 e-mail:rdefence@adm.kanazawa-u.ac.jp
-------------------	------------------------	------------------------	--

※2頁以降は、交付決定を受けた時点の事業計画の項目に合わせて必要に応じて修正すること。

2. 本年度の実績概要

生体は臓器を超えた生体ネットワークによって恒常性維持のための生体反応を行っており、その破綻は様々な疾患を引き起こす。臓器不全に至る共通の進展機序として、慢性炎症とそれに引き続く線維化は重要である。本研究では、国際共同研究を展開することで、臓器間の生体ネットワーク医学の視点から慢性炎症・線維化の発症進展機構を解明し、ヒト疾患の予防、診断や治療に結びつく技術を創出することを目的とする。特に高い専門性と独自の視点を持った施設間にて国際研究ネットワークを形成し、相互連携を図る。本年度は、以下の国際共同研究を行った。

第一に、動物モデルを用いた臓器毎の慢性炎症・線維化の細胞分子基盤の解明を開始した。世界に先駆けてマウスで同定した心臓の線維化に関わる新規の骨髄由来線維化誘導細胞 (precursors of fibroblastic cells, preFC) を中心に、その細胞の役割と意義を明らかにするため、国際共同研究に着手した。マウスを使用した各種臓器線維化モデル (腎臓、心臓、肝臓、肺、そして肥満糖尿病モデルなど) で研究を進めている。若手研究者・岩田恭宜特任助教を主要連携研究者であるハーバード大学ブリガムアンドウィメンズ病院の Vicki Kelley 教授研究室へ派遣し、慢性炎症の進展と制御に関する研究に着手した。また、若手研究者・原島愛助教を主要連携研究者であるハーバード大学ジョスリン糖尿病センターの Steven E Shoelson 教授研究室へ派遣し、マウスを用いた臓器横断的研究を開始した。

第二に、ヒトの疾患における慢性炎症・線維化の臨床病理と病態解明の研究に着手した。腎疾患・心疾患・肝疾患・糖尿病などのヒト疾病の病態解明と疫学調査に取り組み、コホートの構築と解析のための準備を進めるため、若手研究者・遠山直志特任助教を主要連携研究者であるオーストラリア・シドニー大学ジョージ国際保健研究所・腎・代謝部門の Vlado Perkovic 教授研究室へ派遣し準備を進めた。これにより、基礎研究により得られた慢性炎症・線維化、その進展機序について、多数例コホートを用いて国際的な検証作業を行うことが可能となる。さらに派遣者は、日本・オーストラリアでのコホートが協調して形成されるように調整を行う役割も担うこととなる。

第三に、バイオマーカーなどの新規診断方法・治療法など先端医療開発を推進させた。慢性炎症・線維化の発症・進展を反映する包括的な臨床検査診断法の確立を目指すため、白血球分画に存在するヒト preFC が膠原病判定方法として使用できる可能性があることを見出した (特願 2017- 153891)。さらに、マウス疾患モデルを用いて、薬剤投与実験、中和抗体投与実験など行いた新規治療法開発にむけた基盤研究に着手した。

3. 到達目標に対する本年度の達成度及び進捗状況

若手研究者の派遣、主担当研究者及び担当研究者の海外連携研究機関への訪問と打ち合わせ、連携研究者の招聘による共同研究打ち合わせを行うことができた。

海外の連携機関であるハーバード大学ブリガムアンドウィメンズ病院の Vicki Kelley 教授研究室へは、若手研究者・岩田恭宜特任助教を派遣し、慢性炎症から線維化に至るマウス病態モデルならびにヒト疾患例を対象とした研究を開始した。また、慢性炎症から線維化に至る機構の制御に関する研究を行い、最終的な臓器線維化への細胞分子基盤の解明に取り掛かった。担当研究者は、Vicki Kelley 教授研究室へ訪問し、若手研究者のサポートならびに主要連携研究者との意見交換を行い、来年度に向けた共同研究の推進や若手研究者の派遣についての詳細な打ち合わせを行った。

さらに、ハーバード大学ジョスリン糖尿病センターの Steven E Shoelson 教授研究室へは、若手研究者・原島愛助教を派遣し、慢性炎症から線維化に至る肥満、脂肪炎症、糖尿病を中心的な研究対象とする研究を開始した。特に、糖尿病状態における代謝異常に注目し、慢性炎症・線維化についての共通分子基盤を解明する研究に着手した。主担当研究者は、ジョスリン糖尿病センターの主要連携研究者・Steven E Shoelson 教授と連携研究者・Jongsoon Lee 助教授を訪問し、具体的な共同研究打ち合わせと意見交換、来年度に向けた共同研究の推進や若手研究者の派遣についての詳細なディスカッションを行った。さらに、Jongsoon Lee 助教授を金沢大学に招へいし、代謝異常に基づく慢性炎症・線維化と炎症細胞に役割についての研究打ち合わせ、意見交換、セミナーの開催、来年度派遣予定の若手研究者との研究ミーティングを行った。

また、オーストラリア・シドニー大学ジョージ国際保健研究所の Vlado Perkovic 教授研究室へは、若手研究者・遠山直志特任助教を派遣し、臨床的な疾患活動性や治療反応性を反映するバイオマーカーとしたヒトを対象とした介入研究の準備に取り掛かった。担当研究者と若手研究者・遠山直志特任助教は、オーストラリア渡航前の平成30年2月25日に東京で開催された学会への招待講演に参加していた Perkovic 教授と会い、研究打ち合わせを行った。また、担当研究者・和田隆志は、学会出張で平成30年3月13日にシドニー大学を訪問し、Vlado Perkovic 教授と若手研究者・遠山直志特任助教とともに研究打ち合わせを行うなど密に連携を強化している。

一方、今年度は別の若手研究者をハーバード大学ブリガムアンドウィメンズ病院の Vicki Kelley 教授研究室へ派遣予定であったが、当該研究者の都合により派遣取りやめとし、ハーバード大学ジョスリン糖尿病センターの Steven E Shoelson 教授研究室への若手研究者・原島愛助教の派遣を先行追加で行った。また、Steven E Shoelson 教授を本年度金沢大学に招へい予定であったが、当該研究者の都合により平成30年度4月上旬への変更となった。

以上、本年度、本プログラムは少し変更をともなったが概ね当初の計画に従い派遣・招へいと共同研究の推進が実施され、平成30年度4月上旬に Steven E Shoelson 教授の金沢大学への招へいにて到達目標が達成されることとなる。来年度以降も当初の計画に準じ、さらに新たな結果も踏まえて、国際共同研究の推進をさらに進める予定である。

4. 日本側研究グループ（実施主体）の研究成果発表状況（本年度分）

①学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文又は著書

論文名・著書名 等	
<p>（論文名・著書名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年（西暦）について記入してください。）（以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・査読がある場合、印刷済及び採録決定済のものに限って記載して下さい。査読中・投稿中のものは除きます。 ・さらに数がある場合は、欄を追加して下さい。 ・著者名について、責任著者に「※」印を付してください。また、主担当研究者には<u>二重下線</u>、担当研究者については <u>下線</u>、若手研究者については <u>波線</u> を付してください。 ・海外の連携機関の研究者との国際共著論文等には、番号の前に「◎」印を、また、それ以外の国際共著論文等については番号の前に「○」印を付してください。また、主要連携研究者については<u>斜体・太下線</u>、連携研究者については<u>斜体・破線</u>としてください。 	
1	Shinozaki Y, ※ <u>Furuichi K</u> , <u>Toyama T</u> , Kitajima S, Hara A, <u>Iwata Y</u> , Sakai N, Shimizu M, <u>Kaneko S</u> , Isozumi N, Nagamori S, Kanai Y, Sugiura T, Kato Y, <u>Wada T</u> . Impairment of the carnitine/organic cation transporter 1-ergothioneine axis is mediated by intestinal transporter dysfunction in chronic kidney disease. Kidney Int 92(6):1356-1369, 2017【査読有】
2	Hara A, <u>Furuichi K</u> , Koshino A, Yasuda H, Tran TTT, <u>Iwata Y</u> , Sakai N, Shimizu M, <u>Kaneko S</u> , Nakamura H, ※ <u>Wada T</u> . Clinical and pathological significance of autoantibodies to erythropoietin receptor in type 2 diabetic patients With CKD. Kidney Int Rep 3(1):133-141, 2017【査読有】
3	Kamikawa Y, Sakai N, <u>Miyake T</u> , <u>Sagara A</u> , Shinozaki Y, Kitajima S, <u>Toyama T</u> , Hara A, <u>Iwata Y</u> , Shimizu M, <u>Furuichi K</u> , Imamura R, Suda T, <u>Kaneko S</u> , ※ <u>Wada T</u> . Involvement of p38MAPK in impaired neutrophil bactericidal activity of hemodialysis patients. Ther Apher Dial 2018 in press【査読有】
4	Yamamoto K, Yamamoto T, Takamura M, Usui S, Murai H, <u>Kaneko S</u> , ※Taniguchi T. Effects of mineralocorticoid receptor antagonists on responses to hemorrhagic shock in rats. World J Crit Care Med 7(1):1-8, 2018【査読有】
5	Kumagai M, ※Mizukoshi E, Tamai T, Kitahara M, Yamashita T, Arai K, Terashima T, Iida N, Fushimi K, <u>Kaneko S</u> . Immune response to human telomerase reverse transcriptase-derived helper T cell epitopes in hepatocellular carcinoma patients. Liver Int 2018 in press【査読有】
6	Nagano H, Obi S, Hatano E, <u>Kaneko S</u> , Kanai F, Omata M, Tsuji A, Itamoto T, Yamamoto K, Tanaka M, Kubo S, Hirata K, Nakamura H, Tomimaru Y, Yamanaka T, Kojima S, ※Monden M. A multicenter, randomized, controlled trial of S-1 monotherapy versus S-1 and interferon- α combination therapy for hepatocellular carcinoma with extrahepatic metastases. Hepatol Res 2018 in press【査読有】
7	Murai K, Shirasaki T, ※Honda M, Shimizu R, Shimakami T, Nakasho S, Shirasaki N, Okada H, Sakai Y, Yamashita T, <u>Kaneko S</u> . Peretinoin, an acyclic retinoid, inhibits Hepatitis B virus replication by suppressing sphingosine metabolic pathway In Vitro. Int J Mol Sci 19(2):E108, 2018【査読有】
8	Yamada K, ※Mizukoshi E, Seike T, Horii R, Kitahara M, Sunagozaka H, Arai K, Yamashita T, Honda M, <u>Kaneko S</u> . Light alcohol consumption has the potential to suppress hepatocellular injury and liver fibrosis in non-alcoholic fatty liver disease. PLoS One 13(1):e0191026, 2018【査読有】
○9	Cherepanov SM, Akther S, Nishimura T, Shabalova AA, Mizuno A, Ichinose W, Satoshi Shuto S, <u>Yamamoto Y</u> , Yokoyama S, ※Higashida H. Effects of three lipidated oxytocin analogs on behavioral deficits in CD38 knockout mice. Brain Sci 7(10):E132, 2017【査読有】
10	Munesue S, ※ <u>Yamamoto Y</u> . Targeting RAGE: a viable strategy for cancer prevention and treatment? IMARS Highlights 12(6): 5-6, 2017【査読無】

11	Watanabe H, Inaba Y, Kimura K, Matsumoto M, <u>Kaneko S</u> , Kasuga M, ※Inoue H. Sirt2 facilitates hepatic glucose uptake by deacetylating glucokinase regulatory protein. Nat Commun 9(1):30, 2018 【査読有】
12	Takayasu K, Arii S, Sakamoto M, Matsuyama Y, Kudo M, <u>Kaneko S</u> , Nakashima O, Kadoya M, Izumi N, Takayama T, Ku Y, Kumada T, Kubo S, Kokudo T, Hagiwara Y, ※Kokudo N. Liver Cancer Study Group of Japan. Impact of resection and ablation for single hypovascular hepatocellular carcinoma ≤2 cm analyzed with propensity score weighting. Liver Int 2018 in press 【査読有】
13	※Komura T, Ohta H, Seike T, Shimizu Y, Nakai R, Omura H, Kagaya T, Kasashima S, Kawashima A, Oba S, Harada K, <u>Kaneko S</u> , Unoura M. The Efficacy of Corticosteroid Therapy in a Patient with Nonalcoholic Steatohepatitis Overlapping Autoimmune Hepatitis: A Case Report. Intern Med 2018 in press 【査読有】
14	Toyoda H, Tada T, Johnson PJ, Izumi N, Kadoya M, <u>Kaneko S</u> , Kokudo N, Ku Y, Kubo S, Kumada T, Matsuyama Y, Nakashima O, Sakamoto M, Takayama T, ※Kudo M. The Liver Cancer Study Group of Japan. Validation of serological models for staging and prognostication of HCC in patients from a Japanese nationwide survey. J Gastroenterol 2018 in press 【査読有】
15	Terashima T, Yamashita T, Iida N, Yamashita T, Nakagawa H, Arai K, Kitamura K, Kagaya T, Sakai Y, Mizukoshi E, Honda M, ※ <u>Kaneko S</u> . Blood neutrophil to lymphocyte ratio as a predictor in patients with advanced hepatocellular carcinoma treated with hepatic arterial infusion chemotherapy. Hepatol Res 2018 in press 【査読有】
16	※Kawaguchi K, Honda M, Ohta H, Terashima T, Shimakami T, Arai K, Yamashita T, Sakai Y, Yamashita T, Mizukoshi E, Komura T, Unoura M, <u>Kaneko S</u> . Serum Wisteria floribunda agglutinin-positive Mac-2 binding protein predicts hepatocellular carcinoma incidence and recurrence in nucleos(t)ide analogue therapy for chronic hepatitis B. J Gastroenterol 2018 in press 【査読有】
17	Kitao A, Matsui O, Yoneda N, Kozaka K, Kobayashi S, Koda W, Minami T, Inoue D, Yoshida K, Yamashita T, Yamashita T, <u>Kaneko S</u> , Takamura H, Ohta T, Ikeda H, Sato Y, Nakanuma Y, Harada K, Kita R, ※Gabata T. Gadoteric acid-enhanced magnetic resonance imaging reflects co-activation of β -catenin and hepatocyte nuclear factor 4 α in hepatocellular carcinoma. Hepatol Res 48(2):205-216, 2018 【査読有】
18	Murata K, Asano M, Matsumoto A, Sugiyama M, Nishida N, Tanaka E, Inoue T, Sakamoto M, Enomoto N, Shirasaki T, Honda M, <u>Kaneko S</u> , Gatanaga H, Oka S, Kawamura YI, Dohi T, Shuno Y, Yano H, ※Mizokami M. Induction of IFN- λ 3 as an additional effect of nucleotide, not nucleoside, analogues: a new potential target for HBV infection. Gut 67(2):362-371, 2018 【査読有】
19	Hayashi T, ※Yamashita T, Terashima T, Suda T, Okada H, Asahina Y, Hayashi T, Hara Y, Nio K, Sunagozaka H, Takatori H, Arai K, Sakai Y, Yamashita T, Mizukoshi E, Honda M, <u>Kaneko S</u> . Serum cytokine profiles predict survival benefits in patients with advanced hepatocellular carcinoma treated with sorafenib: a retrospective cohort study. BMC Cancer 17(1):870, 2017 【査読有】
20	Funaki M, Kitabayashi J, Shimakami T, Nagata N, Sakai Y, Takegoshi K, Okada H, Murai K, Shirasaki T, Oyama T, Yamashita T, Ota T, Takuwa Y, ※Honda M, <u>Kaneko S</u> . Peretinoin, an acyclic retinoid, inhibits hepatocarcinogenesis by suppressing sphingosine kinase 1 expression in vitro and in vivo. Sci Rep 7(1):16978, 2017 【査読有】
21	Nasti A, ※Sakai Y, Seki A, Buffa GB, Komura T, Mochida H, Yamato M, Yoshida K, Ho TTB, Takamura M, Usui S, <u>Wada T</u> , Honda M, <u>Kaneko S</u> . The CD45 ⁺ fraction in murine adipose tissue-derived stromal cells harbor immune-inhibitory inflammatory cells. Eur J Immunol 47(12):2163-2174, 2017 【査読有】

22	El-Far A, Munesue S, <u>Harashima A</u> , Sato A, Shindo M, Nakajima S, Inada M, Tanaka M, Takeuchi A, Tsuchiya H, Yamamoto H, Shaheen HME, El-Sayed YS, Kawano S, Tanuma S, ※ <u>Yamamoto Y</u> . In vitro anticancer effects of a RAGE inhibitor discovered using a structure-based drug design system. Oncology Lett 2018 in press 【査読有】
23	Miyazawa M, Takatori H, Shimakami T, Kawaguchi K, Kitamura K, Arai K, Matsuda K, Sanada T, Urabe T, Inamura K, Kagaya T, Mizuno H, Fuchizaki U, Yamashita T, Sakai Y, Yamashita T, Mizukoshi E, Honda M, ※ <u>Kaneko S</u> . Prognosis of type 1 autoimmune pancreatitis after corticosteroid therapy-induced remission in terms of relapse and diabetes mellitus. PLoS One 12(11):e0188549, 2017 【査読有】
24	Komura T, Takabatake H, Harada K, Yamato M, Miyazawa M, Yoshida K, Honda M, <u>Wada T</u> , Kitagawa H, Ohta T, <u>Kaneko S</u> , ※Sakai Y. Clinical features of cystatin A expression in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma. Cancer Sci 108(11):2122-2129, 2017 【査読有】
25	Suda T, ※Shimakami T, Shirasaki T, Yamashita T, Mizukoshi E, Honda M, <u>Kaneko S</u> . Reactivation of Hepatitis B Virus from an isolated Anti-HBc positive patient after eradication of Hepatitis C Virus with Direct-acting Antiviral Agents. J Hepatol 67(5):1108-1111, 2017 【査読有】
26	Hayashi T, ※Yamashita T, Okada H, Nio K, Hara Y, Nomura Y, Hayashi T, Asahina Y, Yoshida M, Oishi N, Sunagozaka H, Takatori H, Honda M, <u>Kaneko S</u> . Sporadic PCDH18 somatic mutations in EpCAM-positive hepatocellular carcinoma. Cancer Cell Int 17:94, 2017 【査読有】
27	Pongkan W, Takatori O, Ni Y, Xu L, Nagata N, Chattipakorn SC, Usui S, <u>Kaneko S</u> , Takamura M, Sugiura M, Chattipakorn N, ※Ota T. β -Cryptoxanthin exerts greater cardioprotective effects on cardiac ischemia-reperfusion injury than astaxanthin by attenuating mitochondrial dysfunction in mice. Mol Nutr Food Res 61(10), 2017 【査読有】
28	Nosaka T, Naito T, Hiramatsu K, Ohtani M, Nemoto T, Marusawa H, Ma N, Hiraku Y, Kawanishi S, Yamashita T, <u>Kaneko S</u> , ※Nakamoto Y. Gene expression profiling of hepatocarcinogenesis in a mouse model of chronic hepatitis B. PLoS One 12(10):e0185442, 2017 【査読有】
29	Yoshida M, ※Yamashita T, Okada H, Oishi N, Nio K, Hayashi T, Nomura Y, Hayashi T, Asahina Y, Ohwada M, Sunagozaka H, Takatori H, Colombo F, Porretti L, Honda M, <u>Kaneko S</u> . Sorafenib suppresses extrahepatic metastasis de novo in hepatocellular carcinoma through inhibition of mesenchymal cancer stem cells characterized by the expression of CD90. Sci Rep 7(1):11292, 2017 【査読有】
30	Enomoto H, Tao L, Eguchi R, Sato A, Honda M, <u>Kaneko S</u> , Iwata Y, Nishikawa H, Imanishi H, Iijima H, Tsujimura T, ※Nishiguchi S. The in vivo antitumor effects of type I-interferon against hepatocellular carcinoma: the suppression of tumor cell growth and angiogenesis. Sci Rep 7(1):12189, 2017 【査読有】
31	SI Ohkura, S Usui, SI Takashima, N Takuwa, K Yoshioka, Y Okamoto, Y Inagaki, N Sugimoto, T Kitano, M Takamura, <u>T Wada</u> , <u>S Kaneko</u> , ※Y Takuwa. Augmented sphingosine 1 phosphate receptor-1 signaling in cardiac fibroblasts induces cardiac hypertrophy and fibrosis through angiotensin II and interleukin-6. PLoS One 12(8):e0182329, 2017 【査読有】
32	S Satoh, K Mori, D Onomura, Y Ueda, H Dansako, M Honda, <u>S Kaneko</u> , M Ikeda, ※N Kato. Ribavirin suppresses hepatic lipogenesis through inosine monophosphate dehydrogenase inhibition: Involvement of adenosine monophosphate-activated protein kinase-related kinases and retinoid X receptor α . Hepatol Commun 1(6): 550-563, 2017 【査読有】
33	A Chikata, T Kato, T Yaegashi, S Sakagami, C Kato, T Saeki, K Kawai, SI Takashima, H Murai, S Usui, H Furusho, <u>S Kaneko</u> , ※M Takamura. General anesthesia improves contact force and reduces gap formation in pulmonary vein isolation: a comparison with conscious sedation. Heart Vessels 32(8):997-1005, 2017 【査読有】

34	※T Takamura, Y Kita, M Nakagen, M Sakurai, Y Isobe, Y Takeshita, K Kawai, T Urabe, <u>S Kaneko</u> . Corrigendum to 'Weight-adjusted lean body mass and calf circumference are protective against obesity-associated insulin resistance and metabolic abnormalities'. <u>Heliyon</u> 3(7):e00363, 2017 【査読無】
35	※T Takamura, Y Kita, M Nakagen, M Sakurai, Y Isobe, Y Takeshita, K Kawai, T Urabe, <u>S Kaneko</u> . Weight-adjusted lean body mass and calf circumference are protective against obesity-associated insulin resistance and metabolic abnormalities. <u>Heliyon</u> 3(7):e00347, 2017 【査読有】
36	○ N Sakai, M Nakamura, KE Lipson, <u>T Miyake</u> , Y Kamikawa, <u>A Sagara</u> , Y Shinozaki, S Kitajima, <u>T Toyama</u> , A Hara, <u>Y Iwata</u> , M Shimizu, <u>K Furuichi</u> , <u>S Kaneko</u> , AM Tager, ※ <u>T Wada</u> . Inhibition of CTGF ameliorates peritoneal fibrosis through suppression of fibroblast and myofibroblast accumulation and angiogenesis. <u>Sci Rep</u> 7(1):5392, 2017 【査読有】
37	T Hayashi, ※T Yamashita, H Okada, N Oishi, H Sunagozaka, K Nio, T Hayashi, Y Hara, Y Asahina, M Yoshida, T Hashiba, T Suda, T Shirasaki, Y Igarashi, K Miyanouchi, T Yamashita, M Honda, <u>S Kaneko</u> . A Novel mTOR Inhibitor; Anthracimycin for the Treatment of Human Hepatocellular Carcinoma. <u>Anticancer Res</u> 37(7):3397-3403, 2017 【査読有】
38	H Omura, N Yoshida, T Hayashi, K Miwa, H Takatori, H Tsuji, K Inamura, Y Shiota, H Aoyagi, T Masunaga, K Katayanagi, H Kurumaya, <u>S Kaneko</u> , ※ H Doyama. Interobserver agreement in detection of "white globe appearance" and the ability of educational lectures to improve the diagnosis of gastric lesions. <u>Gastric Cancer</u> 20(4):620-628, 2017 【査読有】
39	M Kudo, M Moriguchi, K Numata, H Hidaka, H Tanaka, M Ikeda, S Kawazoe, S Ohkawa, Y Sato, <u>S Kaneko</u> , J Furuse, M Takeuchi, X Fang, Y Date, M Takeuchi, ※T Okusaka. S-1 versus placebo in patients with sorafenib-refractory advanced hepatocellular carcinoma (S-CUBE): a randomised, double-blind, multicentre, phase 3 trial. <u>Lancet Gastroenterol Hepatol</u> 2(6):407-417, 2017 【査読有】
40	T Terashima, ※T Yamashita, K Arai, K Kawaguchi, K Kitamura, T Yamashita, Y Sakai, E Mizukoshi, M Honda, <u>S Kaneko</u> . Beneficial Effect of Maintaining Hepatic Reserve during Chemotherapy on the Outcomes of Patients with Hepatocellular Carcinoma. <u>Liver Cancer</u> 6(3):236-249, 2017 【査読有】
41	H Okada, R Takabatake, ※M Honda, K Takegoshi, T Yamashita, M Nakamura, T Shirasaki, Y Sakai, T Shimakami, N Nagata, T Takamura, T Tanaka, <u>S Kaneko</u> . Peretinoin, an acyclic retinoid, suppresses steatohepatitis and tumorigenesis by activating autophagy in mice fed an atherogenic high-fat diet. <u>Oncotarget</u> 8(25):39978-39993, 2017 【査読有】
42	L Xu, N Nagata, M Nagashimada, F Zhuge, Y Ni, G Chen, E Mayoux, <u>S Kaneko</u> , ※T Ota. SGLT2 Inhibition by Empagliflozin Promotes Fat Utilization and Browning and Attenuates Inflammation and Insulin Resistance by Polarizing M2 Macrophages in Diet-induced Obese Mice. <u>EBioMedicine</u> 20:137-149, 2017 【査読有】
43	N Tajima-Shirasaki, KA Ishii, H Takayama, T Shirasaki, H Iwama, K Chikamoto, Y Saito, Y Iwasaki, A Teraguchi, F Lan, A Kikuchi, Y Takeshita, K Murao, S Matsugo, <u>S Kaneko</u> , H Misu, ※T Takamura. Eicosapentaenoic acid down-regulates expression of the selenoprotein P gene by inhibiting SREBP-1c protein independently of the AMP-activated protein kinase pathway in H4IIEC3 hepatocytes. <u>J Biol Chem</u> 292(26):10791-10800, 2017 【査読有】
44	X Wang, N Oishi, T Shimakami, T Yamashita, M Honda, S Murakami, ※ <u>S Kaneko</u> . Hepatitis B virus X protein induces hepatic stem cell-like features in hepatocellular carcinoma by activating KDM5B. <u>World J Gastroenterol</u> 23(18):3252-3261, 2017 【査読有】

45	※Okamoto H, Takasawa S, <u>Yamamoto Y</u> . From insulin synthesis to secretion: alternative splicing of type 2 ryanodine receptor gene is essential for insulin secretion in pancreatic β cells. Int J Biochem Cell Biol 91(PtB): 176-183, 2017 【査読有】
46	Onogi Y, Wada T, Kamiya C, Inata K, Matsuzawa T, Inaba Y, Kimura K, <u>Inoue H</u> , Yamamoto S, Ishii Y, Koya D, Tsuneki H, Sasahara M, ※Sasaoka T. PDGFR β regulates adipose tissue expansion and glucose metabolism via vascular remodeling in diet-induced obesity. Diabetes 66(4):1008-1021, 2017 【査読有】
47	※井上啓. 「予防医学の扉を開く 食品に秘められたサイエンス -栄養の視床下部での感知と糖代謝への作用-」 実験医学 35; 630-633, 2017 【査読無】
48	○ Nelissen T, Bamford RA, Tochtani S, Akkus K, Kudzinskas A, Yokoid K, Usui N, Okamoto H, <u>Yamamoto Y</u> , Burbach PH, Matsuzaki H, ※Oguro-Ando A. CD38 is required for dendritic organisation in visual cortex and hippocampus. Neuroscience 2018 in press 【査読有】
49	○ Lam D, Theaker M, Momeni Z, <u>Yamamoto Y</u> , Jagadeeshan S, ※Campanucci VA. RAGE-dependent potentiation of TRPV1 currents in sensory neurons exposed to high glucose. PLoS ONE 2018 in press 【査読有】
50	※Higuchi T, Takeuchi, A, Munesue S, Yamamoto N, Hayashi K, Kimura H, Miwa S, Inatani H, Shimozaki S, Kato T, Aoki Y, Abe K, Taniguchi Y, Aiba H, Murakami H, <u>Harashima A</u> , <u>Yamamoto Y</u> , Tsuchiya H. Anti-tumor effects of a non-steroidal anti-inflammatory drug zaltoprofen on chondrosarcoma via activating peroxisome proliferator-activated receptor gamma and suppressing matrix metalloproteinase-2 expression. Cancer Med 2018 in press 【査読有】
51	○ Akther S, Zhong J, Liang M, Cherepanov SM, Lopatina O, Salmina AB, Tsuji C, Tsuji T, <u>Yamamoto Y</u> , Yokoyama S, ※Higashida H. CD38 in the nucleus accumbens is critical in paternal behavior in mice. Messenger 2018 in press 【査読有】
52	○ Tsuji T, Liang M, Lopatina O, Yuhi T, Tsuji C, Zhong J, Akther S, Zhong J, Nishimura T, Amina S, Liu HX, Hashii M, Furuhashi K, <u>Yamamoto Y</u> , Yokoyama S, ※Higashida H. TRPM2, a new player, in cyclic ADP-ribose/CD38-dependent oxytocin release in the hypothalamus. Messenger 2018 in press 【査読有】
53	○ Cherepanov S, Yokoyama S, Mizuno A, Ichinose W, Lopatina O, Shabalova A, Salmina A, <u>Yamamoto Y</u> , Okamoto H, Shuto S, ※Higashida H. Structure-specific effects of lipidated oxytocin analogs on intracellular calcium levels, parental behavior, plasma and cerebrospinal fluid oxytocin concentrations in mice. Pharmacology Research & Perspectives 5(1): e00290, 2017 【査読有】
54	Aikawa T, Matsubara H, Ugaji S, Shirakawa J, Nagai R, Munesue S, <u>Harashima A</u> , ※ <u>Yamamoto Y</u> , Tsuchiya H. Contribution of methylglyoxal to delayed healing of bone injury in diabetes. Mol Med Rep 16(1): 402-409, 2017 【査読有】
55	○ Kwak T, Drews-Elger K, Ergonul A, Miller PC, Braley A, Hwang GH, Zhao D, Besser A, <u>Yamamoto Y</u> , Yamamoto H, El-Ashry D, Slingerland JM, Lippman ME, Hudson BI. Targeting of RAGE-ligand signaling impairs breast cancer cell invasion and metastasis. Oncogene 36(11):1559-72, 2017 【査読有】
56	Hattori T, Kaji M, Ishii H, Jureepon R, Takarada-Iemata M, Minh Ta H, Manh Le T, Konno A, Hirai H, Shiraishi Y, Ozaki N, <u>Yamamoto Y</u> , Okamoto H, Yokoyama S, Higashida H, Kitao Y, ※Hori O. CD38 positively regulates postnatal development of astrocytes cell-autonomously and oligodendrocytes non-cell-autonomously. Glia 2017; 65(6): 974-89 【査読有】
57	※Yamaguchi T, Fushida S, <u>Yamamoto Y</u> , Tsukada T, Kinoshita J, Oyama K, Miyashita T, Tajima H, Ninomiya I, Munesue S, Harashima A, Harada S, Yamamoto H, Ohta T. Low-dose paclitaxel suppresses the induction of M2 macrophages in gastric cancer. Oncology Rep 37(6): 3341-3350, 2017 【査読有】

○ 58	Kim MJ, Vargas MR, Harlan BA, Killoy KM, Ball L, Comte-Walters S, Gooz M, <u>Yamamoto Y</u> , Beckman JS, Barbeito L, ※Pehar M. Nitration and glycation turn mature NGF into a toxic factor for motor neurons: a role for p75NTR and RAGE signaling in ALS. Antioxid Redox Signal 2018 in press 【査読有】
59	Harashima A, ※ <u>Yamamoto Y</u> . Perception of pathogenic bacteria by pattern recognition receptor RAGE in the frontline. IMARS Highlights 12(2): 5-7, 2017 【査読無】
○ 60	※Higashida H, Furuhashi K, Yamauchi AM, Deguchi K, Harashima A, Munesue S, Lopatina O, Gerasimenko M, Salmina AB, Zhang JS, Kodama H, Kuroda H, Tsuji C, Suto S, Yamamoto H, <u>Yamamoto Y</u> . Intestinal transepithelial permeability of oxytocin into the blood is dependent on the receptor for advanced glycation end products in mice. Sci Rep 7(1): 7883, 2017 【査読有】

②学会等における発表

発表題名 等	
<p>(発表題名、発表者名、発表した学会等の名称、開催場所、口頭発表・ポスター発表の別、審査の有無、発表年月(西暦)について記入してください。)(以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。)</p> <p>・発表者名は参加研究者を含む全員の氏名を、論文等と同一の順番で記載すること。共同発表者がいる場合は、全ての発表者名を記載し、責任発表者名は「※」印を付して下さい。発表者名について主担当研究者には<u>二重下線</u>、担当研究者については<u>下線</u>、若手研究者については<u>波線</u>を付して下さい。</p> <p>・口頭・ポスターの別、発表者決定のための審査の有無を区分して記載して下さい。</p> <p>・さらに数がある場合は、欄を追加して下さい。</p> <p>・海外の連携機関の研究者との国際共同発表には、番号の前に「◎」印を、また、それ以外の国際共同発表については番号の前に○印を付して下さい。また、主要連携研究者については<u>斜体・太下線</u>、連携研究者については<u>斜体・破線</u>としてください。</p>	
1	※ <u>和田隆志</u> ：腎腸連関とマイクロバイオーム，第52回日本小児腎臓病学会学術集会，京王プラザホテル（東京），口頭，審査有，2017年6月2日
2	※ <u>和田隆志</u> ：肥満症と腎障害，第9回日本肥満学会「より良い特定健診・保健指導のための」スキルアップ講座・生活習慣病改善指導講習会，東京ファッションタウンビル，口頭，審査有，2017年6月11日
3	※ <u>和田隆志</u> ：日本と海外の血液透析の状況と国際比較，第62回日本透析医学会学術集会・総会，パシフィコ横浜，口頭，審査有，2017年6月18日
4	※ <u>遠山直志</u> ・ <u>北島信治</u> ・ <u>古市賢吾</u> ・ <u>和田隆志</u> ：CKDと新たな検査，パシフィコ横浜，口頭，審査有，日本臨床検査自動化学会第49回大会 2017年9月23日
5	※ <u>三宅泰人</u> ・ <u>坂井宣彦</u> ・ <u>古市賢吾</u> ・ <u>和田隆志</u> ：マウス腹膜線維化モデルにおけるトレハロースの線維化抑制効果の検討，第23回日本腹膜透析学会学術集会・総会，北九州国際会議場（福岡），口頭，審査有，2017年10月7日
6	※ <u>原章規</u> ・ <u>古市賢吾</u> ・ <u>和田隆志</u> ：ネフローゼ症候群とアフェレシス療法，第47回日本腎臓学会西部学術大会，岡山コンベンションセンター，口頭，審査無，2017年10月14日
7	※ <u>古市賢吾</u> ・ <u>和田隆志</u> ：腎不全における臓器連関破綻～腸・腎連関～，2017年度生命科学系学会合同年次大会 ConBio2017，神戸商工会議所，口頭，審査無，2017年12月7日
8	※ <u>和田隆志</u> ：慢性腎臓病における腸腎連関 — トランスポーターの観点から — ，日本薬学会第138年会，ANAクラウンプラザホテル金沢，口頭，審査有，2018年3月27日
9	※Inaba Y, Kimura K, Tanida M, Watanabe H, Kido Y, Matsumoto M, Kasuga M, <u>Inoue H</u> ：13th International Symposium on Insulin Receptor and Insulin Action “Role of nicotinic acetylcholine receptor and gut microbiota in central-insulin mediated regulation of hepatic glucose production” 2017年4月20-22日（Nice フランス）ポスター 審査有

10	※ <u>渡邊一史</u> 、 <u>松本道宏</u> 、 <u>春日雅人</u> 、 <u>井上啓</u> ：第32回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会「肥満モデルにおける肝糖取り込み障害メカニズムの解明」2018年2月23日（ウインクあいち 名古屋）口頭発表 審査有
11	※ <u>井上啓</u> ：第40回日本分子生物学会 第90回日本生化学会合同大会「脂肪肝再生における細胞死誘導の仕組み」2017年12月8日（神戸ポートアイランド 神戸）口頭発表 審査有
12	※ <u>井上啓</u> 、 <u>渡邊一史</u> 、 <u>稲葉有香</u> 、 <u>木村久美</u> 、 <u>橘伸彦</u> 、 <u>本山貴康</u> 、 <u>河野光登</u> ：第38回日本肥満学会 脂肪肝I「非アルコール性脂肪性肝疾患の予防における緑豆タンパクの有用性」2017年10月7日（大阪国際会議場 大阪）ポスター 審査有
13	※ <u>稲葉有香</u> 、 <u>渡邊一史</u> 、 <u>木村久美</u> 、 <u>井上啓</u> ：第38回日本肥満学会 脂肪肝I「脂肪肝再生障害における統合的ストレス応答による細胞死誘導のメカニズムの検討」2017年10月7日（大阪国際会議場 大阪）口頭発表 審査有
14	※ <u>渡邊一史</u> 、 <u>春日雅人</u> 、 <u>井上啓</u> ：第38回日本肥満学会 耐糖能異常・糖尿病「NAD ⁺ /SIRT2作用の低下は肝糖取り込みを障害する」2017年10月7日（大阪国際会議場 大阪）口頭発表 審査有
15	※ <u>渡邊一史</u> 、 <u>稲葉有香</u> 、 <u>木村久美</u> 、 <u>松本道宏</u> 、 <u>金子周一</u> 、 <u>春日雅人</u> 、 <u>井上啓</u> ：第35回内分代謝学サマーセミナー「NAD ⁺ による肝糖取り込み調節機構の解析」2017年7月15日（水上館 群馬）ポスター 審査有
16	※ <u>稲葉有香</u> 、 <u>春日雅人</u> 、 <u>井上啓</u> ：第35回内分代謝学サマーセミナー「肝再生過程における統合的ストレス応答による細胞死誘導メカニズムの解明」2017年7月14日（水上館 群馬）口頭発表 審査有
17	※ <u>井上啓</u> ：神戸大学シグナル統合セミナー（先端医学トピックス）「統合的ストレス応答シグナルと肝障害（Integrated stress response and cell death in hepatic steatosis）」2017年6月15日（神戸大学 神戸）口頭発表 審査有
18	※ <u>井上啓</u> ：第60回日本糖尿病学会年次学術集会 シンポジウム28 肥満・糖尿病と中枢・臓器連関「Central insulin action and hepatic glucose metabolism」2017年5月20日（名古屋国際会議場 名古屋）招待講演
19	※ <u>井上啓</u> ：第60回日本糖尿病学会年次学術集会 第4回肝臓と糖尿病・代謝研究会 シンポジウム 糖尿病とNASH/NAFLD および肝発癌「NAFLDにおける迷走神経系の役割」2017年5月20日（名古屋国際会議場 名古屋）招待講演
20	※ <u>井上啓</u> ：新学術領域「細胞死を起点とする生体制御ネットワークの解明」第3回領域班会議「統合的ストレス応答による肝再生過程の細胞死様式の調節メカニズムの解明」2017年5月18日-19日（ホテルグリーンピア南阿蘇 熊本）口頭発表 審査有
21	※ <u>高山浩昭</u> 、 <u>御簾博文</u> 、 <u>菊地晶裕</u> 、 <u>石井清朗</u> 、 <u>斉藤芳郎</u> 、 <u>金子周一</u> 、 <u>篁俊成</u> ヘパトカインセレノプロテインPが惹起する運動療法抵抗性に関する解析 日本糖尿病肥満動物 2017/2/1 口頭発表 審査有
22	※ <u>陳冠良</u> 、 <u>倪銀華</u> 、 <u>徐亮</u> 、 <u>永島田まゆみ</u> 、 <u>諸葛芬</u> 、 <u>長田直人</u> 、 <u>金子周一</u> 、 <u>太田嗣人</u> Astaxanthin prevents and reverses lipotoxicity-induced hepatic insulin resistance and steatohepatitis: A comparison with vitamin E Shanghai, China The 26th Conference of the APASL Annual Meeting, Shanghai, China 示説（ポスター）2017/2/18 審査有
23	※ <u>陳冠良</u> 、 <u>倪銀華</u> 、 <u>徐亮</u> 、 <u>永島田まゆみ</u> 、 <u>諸葛芬</u> 、 <u>長田直人</u> 、 <u>金子周一</u> 、 <u>太田嗣人</u> Astaxanthin prevents and reverses lipotoxicity-induced hepatic insulin resistance and steatohepatitis: A comparison with vitamin E アジア太平洋地域肝病 2017/2/18 審査有
24	※ <u>大村仁志</u> 、 <u>Liu Fanwei</u> 、 <u>島上哲朗</u> 、 <u>山下太郎</u> 、 <u>金子周一</u> C型肝炎ウイルス感染可能な新規細胞株に関する解析 東京、肝炎ウイルス研究会、口演（一般演題）2017/2/24 審査有
25	※ <u>迫佐央理</u> 、 <u>島孝佑</u> 、 <u>湯浅豊司</u> 、 <u>御簾博文</u> 、 <u>金子周一</u> 、 <u>篁俊成</u> ナジフロキシン外用薬が誘因と考えられたインスリン自己免疫症候群の1例 日本内科地方会 口演 2017/3/12 審査有

26	※薄井莊一郎、高島伸一郎、井上己音、草山隆志、村井久純、古莊浩司、 <u>金子周一</u> 、高村雅之 Endogenous Selenoprotein P is a Positive Media-tor of Cardiac Remodeling in Response to Pressure Overload 日本循環器学会総会（金沢）口演（一般演題）2017/3/17 審査有
27	※金森尚美、加藤武史、八重樫貴紀、薄井莊一郎、古莊浩司、高島伸一郎、村井久純、 <u>金子周一</u> 、高村雅之 Rapid Atrial Pacing Altered Gene Expression Pro-file of Inflammatory Pathways in the Liver 日本循環器学会総会（金沢）口演（一般演題）2017/3/17 審査有
28	※井上己音、薄井莊一郎、濱岡卓人、大辻浩、高島伸一郎、加藤武史、村井久純、古莊浩司、飯野賢治、竹村博文、 <u>金子周一</u> 、高村雅之 Chronic Hyperinsulinemia and Adipose Tissue In-flammation Decrease the Yield of Therapeutic Stem Cells in Patients with Cardiovascular Disease 日本循環器学会総会（金沢）口演（一般演題）2017/3/19 審査有
29	※井上己音、薄井莊一郎、濱岡卓人、大辻浩、高島伸一郎、加藤武史、村井久純、古莊浩司、飯野賢治、竹村博文、 <u>金子周一</u> 、高村雅之 The CD271-positive Subset in Human Adipose-derived Stem Cells Influences Therapeutic Neo-vascularization by Cell Therapy in a Mouse Hindlimb Ischemia Model 日本循環器学会総会（金沢）口演（一般演題）2017/3/19 審査有
30	※井上己音、薄井莊一郎、加藤武史、村井久純、古莊浩司、本多政夫、水腰英四郎、高村雅之、 <u>金子周一</u> 末梢血網羅的遺伝子解析による急性冠症候群後長期二次イベント新規予測因子の探求 日本内科学会総会（東京）示説（ポスター）2017/4/15 審査有
31	※北村和哉、 <u>金子周一</u> 便細菌叢移植により臨床的寛解を認めた潰瘍性大腸炎患者の細菌叢のドナーとの比較検討 日本消化器病学会総会 ワークショップ 口演 2017/4/20 審査有
32	※荒井邦明、山下竜也、高田昇、堀井里和、寺島健志、砂子阪肇、 <u>金子周一</u> 肝細胞癌の肝切除・RFA 治療選択における腫瘍マーカーの影響 日本消化器病学会総会（東京）パネルディスカッション口演 2017/4/20 審査有
33	※林智之、朝日向良朗、岡藤啓史、中西宏佳、砂子阪肇、鷹取元、島上哲朗、荒井邦明、川口和紀、北村和哉、山下太郎、酒井佳夫、山下竜也、水腰英四郎、本多政夫、澤田武、小林武嗣、岡本浩一、二宮致、 <u>金子周一</u> 高齢者における表在型食道癌内視鏡切除後の予後についての検討 日本消化器病学会総会（東京）パネルディスカッション口演 2017/4/20 審査有
34	※北原征明、 <u>金子周一</u> 非代償性肝硬変の難治性腹水に対するトルバプタンの長期予後および入院期間に与える有用性の検討 日本消化器病学会総会（東京）パネルディスカッション口演 2017/4/20 審査有
35	※本多政夫、 <u>金子周一</u> ベレチノインによる肝発がん抑制機構の解析 日本消化器病学会総会（東京）シンポジウム口演 2017/4/20 審査有
36	※北村 和哉、林 智之、 <u>金子周一</u> 生物学的製剤二次無効を回避するためのクローン病治療戦略 日本消化器病学会総会（東京）口演（一般演題）2017/4/21 審査有
37	※清水吉晃、荒井邦明、 <u>金子周一</u> C型慢性肝疾患 DAA 治療後の Gd-EOB-DTPA 造影MRIにおける非多血性肝細胞相低信号結節の変化 日本消化器病学会総会（東京）口演（一般演題）2017/4/21 審査有
38	※羽柴智美、水腰英四郎、 <u>金子周一</u> 膵癌に対する免疫治療についての検討 日本消化器病学会総会（東京）シンポジウム 口演 2017/4/21 審査有
39	※島上哲朗、堀井里和、砂子阪肇、荒井邦明、山下太郎、酒井佳夫、山下竜也、水腰英四郎、本多政夫、 <u>金子周一</u> C型慢性肝疾患に対する経口抗ウイルス薬治療の治療効果に関する検討 日本消化器病学会総会（東京）口演（一般演題）2017/4/22 審査有
40	※御簾博文 <u>金子周一</u> 高脂肪食による肥満関連ヘパトカイン LECT2 の発現と NASH 進展への寄与 日本消化器病学会総会（東京）シンポジウム口演 2017/4/22 審査有
41	※本多政夫、 <u>金子周一</u> Notch 阻害剤による肝細胞核内 HBV 制御機構 日本消化器病学会総会（東京）パネルディスカッション口演 2017/4/22 審査有

42	※飯田宗穂、水腰英四郎、金子周一 腸内細菌叢異常が肝発癌に与える影響の検討 日本消化器病学会総会（東京）シンポジウム口演 2017/4/22 審査有
43	※寺島健志、山下竜也、金子周一 高齢者進行肝細胞癌に対する肝動注化学療法 の検討 日本消化器病学会総会（東京）示説（ポスター）2017/4/22 審査有
44	※山下竜也、金子周一 門脈血栓症例の治療成績と長期予後 日本消化器病学会 総会（東京）ワークショップ口演 2017/4/22 審査有
45	※関晃裕、金子周一 自己脂肪組織由来間質細胞を用いた肝硬変治療開発の臨床研 究 日本消化器病学会総会（東京）ワークショップ口演 2017/4/22 審査有
46	※林智之、朝日向良朗、岡藤啓史、中西宏佳、鷹取元、北村和哉、澤田武、金子周一 Clinicopathological Features of Gastric Cancer after Helicobacter pylori Eradication 2017 年度米国消化器病週間（DDW 2017）シカゴ 示説（ポスター） 2017/5/8 審査有
47	※北村和哉、金子周一 慢性肝疾患を背景とした小腸出血と OGIB の長期予後 日本 消化器内視鏡学会総会（大阪）パネルディスカッション口演 2017/5/11 審査有
48	※飯田宗穂、金子周一 Change in mucosal microbiota following fecal microbiota transplantation for the patients with ulcerative colitis 日本消化器内視鏡学 会総会（大阪）ワークショップ口演 2017/5/12 審査有
49	※北村和哉、水腰英四郎、金子周一 早期クローン病の臨床的特徴と内視鏡所見に 基づく治療戦略 日本消化器内視鏡学会総会（大阪）パネルディスカッション口演 2017/5/12 審査有
50	※鷹取元、在原文教、田中章浩、稲邑克久、小村卓也、宮澤正樹、西川智貴、林智之、 金子周一 食道 MM/SM1 癌 ESD 後の現状と予後 日本消化器内視鏡学会総会（大阪） 口演（一般演題）2017/5/13 審査有
51	※林智之、朝日向良朗、岡藤啓史、玉井利克、堀井里和、寺島健志、飯田宗穂、北原 証明、砂子阪肇、島上哲朗、鷹取元、荒井邦明、川口和紀、北村和哉、山下太郎、酒 井佳夫、山下竜也、水腰英四郎、本多政夫、小林武嗣、金子周一 早期胃癌内視鏡 治療後の異時性再発予測としての胃炎京都分類の有用性 日本消化器内視鏡学会総 会（大阪）口演（一般演題）2017/5/13 審査有
52	※荒井邦明、清水吉晃、山下竜也、金子周一 Gd-EOB-DTPA 造影 MRI 肝細胞相低信号 非多血性結節に対する DAA 治療の影響 日本肝臓学会総会（広島）ワークショップ口 演 2017/6/8 審査有
53	※島上哲朗、堀井里和、砂子阪肇、荒井邦明、山下太郎、酒井佳夫、山下竜也、水腰 英四郎、本多政夫、金子周一 C 型慢性肝疾患に対するインターフェロンフリー抗ウ イルス療法後の肝癌発症に関わる因子の検討 日本肝臓学会総会（広島）口演（一般 演題）2017/6/8 審査有
54	※川口和紀、橋本真一、金子周一 Single cell 解析を利用した HBV 感染維持を枯渇 させる肝細胞内遺伝子の探索とその機能解析 日本肝臓学会総会（広島）シンポジウ ム口頭 2017/6/8 審査有
55	※朝日向良朗、砂子阪肇、高田昇、岡藤啓史、林智之、堀井里和、北原証明、飯田 宗穂、鷹取元、島上哲朗、北村和哉、川口和紀、荒井邦明、山下太郎、酒井佳夫、山 下竜也、水腰英四郎、本多政夫、金子周一 難治性腹水を伴った非代償性肝硬変に おけるトルバプタンの入院期間に与える影響 日本肝臓学会総会（広島）口演（一 般演題）2017/6/8 審査有
56	※本多政夫、村居和寿、金子周一 IFNλ3 の自然免疫及び抗腫瘍免疫における役割 日本肝臓学会総会（広島）ワークショップ口頭 2017/6/8 審査有
57	※山下竜也、寺島健志、金子周一 行肝細胞癌に対する 5-FU 持続肝動注化学療法を 中心とした集学的治療に関する検討 日本肝臓学会総会（広島）パネルディスカシ ョン 2017/6/8 審査有
58	※荒井邦明、金子周一 Fibroscan による NASH の絞り込み 日本肝臓学会総会（広 島）ワークショップ口頭 2017/6/8 審査有

59	※御簾博文 <u>金子周一</u> 肥満関連へパトカイン LECT2 はマクロファージ活性化を介して NASH を増悪させる 日本肝臓学会総会 (広島) ワークショップ 2017/6/9 審査有
60	※北原征明, 砂子阪肇, <u>金子周一</u> 当院における急性肝不全の現状 日本肝臓学会総会 (広島) 示説 (ポスター) 2017/6/9 審査有
61	※島上哲朗, <u>金子周一</u> 核酸アナログ製剤投与中の B 型慢性肝疾患症例における肝発癌に関する検討 日本肝臓学会総会 (広島) パネルディスカッション口頭 2017/6/9 審査有
62	※水腰英四郎, <u>金子周一</u> 原発性胆汁性胆管炎に対するウルソデオキシコール酸の治療効果を予測する組織学的因子の同定 日本肝臓学会総会 (広島) ワークショップ口頭 2017/6/9 審査有
63	※山下太郎, 林智之, <u>金子周一</u> ソラフェニブ治療により全生存期間延長効果が期待できる肝細胞癌患者の選択に有用な血清バイオマーカー探索 日本肝臓学会総会 (広島) ワークショップ口頭 審査有
64	※島上哲朗, 本多政夫, <u>金子周一</u> アスナプレビル・ダクラタスビル療法の治療効果と非著効例に対するレジパスビル・ソフォスブビルの治療効果に関する検討 日本肝臓学会総会 (広島) シンポジウム口頭 2017/6/9 審査有
65	※寺島健志, 山下竜也, 吉田亮太, 荒井邦明, 水腰英四郎, <u>金子周一</u> 肝動注化学療法により完全奏効が得られた進行肝細胞癌患者の検討 日本肝臓学会総会 (広島) 示説 (ポスター) 2017/6/9 審査有
66	※山下竜也, <u>金子周一</u> C 型慢性肝疾患を背景とした HCC 根治後 SVR 症例の HCC 再発予測因子の検討 日本肝臓学会総会 (広島) ワークショップ口頭 2017/6/9 審査有
67	※北原征明, 織田典明, 朝日向良朗, 林智之, 玉井利克, 丹尾幸樹, 飯田宗穂, 鷹取元, 島上哲朗, 北村和哉, 川口和紀, 荒井邦明, 山下太郎, 酒井佳夫, 山下竜也, 水腰英四郎, 本多政夫, <u>金子周一</u> 生体肝移植後の腎機能障害を伴う C 型肝炎再発に対して直接作用型抗ウイルス薬が有効であった 2 例 日本消化器病学会北陸地方会口演 (一般演題) 2017/6/11 審査有
68	※木戸秀典 寺島健司 早川希 山宮大典 高田昇 岡藤啓史 中西宏佳 西川昌志 堀井里和 北原征明 飯田宗穂 島上哲朗 北村和哉 川口和紀 荒井邦明 澤田武 山下太郎 酒井佳夫 山下竜也 水腰英四郎 本多政夫 <u>金子周一</u> ペグフィログラスチム併用 FOLFIRINOX 療法中に発熱性好中球減少症を呈した進行膵癌の 3 例 日本消化器病学会北陸地方会 口演 (一般演題) 2017/6/11 審査有
69	※高田昇 米島淳 北村和哉 川口和紀 荒井邦明 山下竜也 水腰英四郎 本多政夫 <u>金子周一</u> 抗酒薬ジスルフィラムにより重篤な肝障害をきたした 1 例 日本内科北陸地方会 (富山) 口演 (一般演題) 2017/6/18 審査有
70	※山下竜也, 寺島健志, 高田昇, 北原征明, 砂子阪肇, 荒井邦明, <u>金子周一</u> 当科におけるソラフェニブ投与症例の肝予備能の推移と 2 次治療 日本肝癌分子標的治療研究会 示説 (ポスター) 2017/6/24 審査有
71	※寺島健志, 山下竜也, <u>金子周一</u> 進行肝細胞癌患者に対するソラフェニブ治療後に肝内病変を標的とした治療の有用性 日本肝癌分子標的治療研究会 示説 (ポスター) 2017/6/24 審査有
72	※中井亮太郎, 鷹取元, 木戸秀典, 木村真規子, 早川希, 織田典明, 山宮大典, 高田昇, 朝日向良朗, 岡藤啓史, 林智之, 玉井利克, 堀井里和, 丹尾幸樹, 寺島健志, 北原征明, 飯田宗穂, 島上哲朗, 荒井邦明, 川口和紀, 北村和哉, 山下太郎, 酒井佳夫, 山下竜也, 水腰英四郎, 本多政夫, <u>金子周一</u> ばね付きクリップでのけん引が有効であった幽門輪近傍早期胃癌 ESD の 2 症例 日本消化器内視鏡学会地方会 (富山県医師会館、富山) 口演 (一般演題) 2017/6/25 審査有
73	※太田亮介, 中井亮太郎, 山宮大典, 織田典明, 朝日向良朗, 高田昇, 岡藤啓史, 中西宏佳, 玉井利克, 西川昌志, 丹尾幸樹, 堀井里和, 稲垣聡子, 寺島健志, 飯田宗穂, 北原征明, 山田真也, 島上哲朗, 鷹取元, 荒井邦明, 川口和紀, 北村和哉, 澤田武, 山下太郎, 酒井佳夫, 山下竜也, 水腰英四郎, 本多政夫, 岡本浩一, 二宮致, <u>金子周一</u> 第二世代光感受性物質タラポルフィンナトリウムにて光線力学療法を行った放射線治療後遺残再発食道癌の検討 日本消化器内視鏡学会地方会 (富山県医師会館、富山) 口演 (一般演題) 2017/6/25 審査有

74	※早川晃，林智之，中井亮太郎，織田典明，山宮大典，朝日向良朗，高田昇，岡藤啓史，玉井利克，堀井里和，丹尾幸樹，寺島健志，北原 征明，飯田宗穂，島上哲朗，鷹取元，荒井邦明，川口和紀，北村和哉，山下太郎，酒井佳夫，山下竜也，水腰英四郎，本多政夫，牧野勇，田島秀浩， <u>金子周一</u> 新型胆道鏡にて観察した膵 IPMN の1例 日本消化器内視鏡学会地方会（富山県医師会館、富山）口演（一般演題）2017/6/25 審査有
75	※平井忠幸、徳久英樹、高島伸一郎、加藤武史、村井久純、薄井荘一郎、古荘浩司、 <u>金子周一</u> 、高村雅之、山岸正和 若年脳梗塞を機に診断された左室緻密化障害の1例 日本循環器学会北陸地方会（石川）口演（一般演題）2017/6/25 審査有
76	※島上哲朗，堀井里和，砂子阪肇，荒井邦明，山下太郎，酒井佳夫，山下竜也，水腰英四郎，本多政夫， <u>金子周一</u> C型慢性肝疾患に対する抗ウイルス療法後の肝癌発症に関する検討 日本肝癌研究会総会（東京）口演（一般演題）2017/7/6 審査有
77	※山下竜也，寺島健志， <u>金子周一</u> 高度進行肝細胞癌（Vp3 以上，Vv2 以上）に対する5-FU 持続肝動注化学療法を中心とした集学的治療に関する検討 日本肝癌研究会総会（東京）パネルディスカッション口頭 2017/7/6 審査有
78	※寺島健志、山下竜也、高田昇、堀井里和、砂子阪肇、荒井邦明、 <u>金子周一</u> 肝予備能の推移から検討した進行肝細胞癌に対するソラフェニブと肝動注化学療法の選択 日本肝癌研究会総会（東京）ワークショップ口頭 2017/7/6 審査有
79	※玉井利克、荒井邦明、高田昇、堀井里和、寺島健志、北原征明、砂子阪肇、山下竜也、水腰英四郎、 <u>金子周一</u> 当院における BCLC-B intermediate stage 肝癌の治療成績の検討 日本肝癌研究会総会（東京）パネルディスカッション口頭 2017/7/6 審査有
80	※米島淳，砂子阪肇，鷹取元，荒井邦明，北村和哉，山下太郎，酒井佳夫，山下竜也，水腰英四郎，本多政夫， <u>金子周一</u> 肝細胞癌症例における放射線治療後の胃・十二指腸病変に関する検討 日本肝癌研究会総会（東京）パネルディスカッション 2017/7/6 審査有
81	※吉田亮太，砂子阪肇，島上哲朗，高田昇，堀井里和，北原征明，荒井邦明，山下竜也， <u>金子周一</u> 診断に難渋し腫瘍生検により確定診断に至った肝紫斑病の一例 日本肝癌研究会総会（東京）口演（一般演題）2017/7/6 審査有
82	※石田晃介，山下竜也，高田昇，堀井里和，寺島健志，北原征明，砂子阪肇，島上哲朗，川口和紀，荒井邦明，山下太郎，酒井佳夫，水腰英四郎，本多政夫， <u>金子周一</u> 進行肝細胞癌に対する Sorafenib 治療前後の肝予備能変化からみた二次治療選択に関する検討 日本肝癌研究会総会（東京）ワークショップ 2017/7/7 審査有
83	※北原征明，山下竜也， <u>金子周一</u> 当科における非 B 非 C 肝癌に対する経皮的局所治療の検討 日本肝癌研究会総会（東京）シンポジウム 2017/7/7 審査有
84	※荒井邦明，山下竜也，高田昇，堀井里和，寺島健志，北原征明， <u>金子周一</u> 動注 CT から検討する Gd-EOB-DTPA 造影 MRI 導入前後の肝癌診療前診断の推移 日本肝癌研究会総会（東京）ワークショップ口頭 2017/7/7 審査有
85	※荒井邦明，高田昇，北原征明，山下竜也， <u>金子周一</u> Fibroscan®による C 型慢性肝炎症例の肝予備能の推定 日本肝癌研究会総会（東京）口演（一般演題）2017/7/7 審査有
86	※山下竜也，堀井里和，寺島健志，北原征明，砂子阪肇，荒井邦明， <u>金子周一</u> 当科における高齢者肝癌治療の現状 日本肝癌研究会総会（東京）パネルディスカッション口頭 2017/7/7 審査有
87	※三宅泰人，北島信治，岩田恭宜，坂井宣彦，清水美保，古市賢吾，和田隆志， <u>金子周一</u> ，向出大介 左総腸骨静脈閉塞を伴った IgG4 関連後腹膜繊維症の1例 日本内科学会北陸地方会（金沢）口演（一般演題）2017/9/3 審査有
88	※島上哲朗，本多政夫， <u>金子周一</u> アスナプレビル・ダクラタスビル療法の治療効果と非著効例に対するレジパスビル・ソフォソブピルの治療効果予測に関する検討 日本肝臓学会総会（福岡）示説（ポスター）2017/10/12 審査有
89	※北原征明，山下竜也， <u>金子周一</u> 当院における非 B 非 C 肝癌の実態 日本肝臓学会総会（福岡）デジタルポスターセッション口頭 2017/10/12 審査有

90	※船木雅也, 島上哲朗, <u>金子周一</u> 直接作用型抗ウイルス薬にてSVR達成後トランスアミナーゼの正常化を認めなかったC型慢性肝疾患症例に関する解析 日本肝臓学会総会(福岡) デジタルポスターセッション 2017/10/12 審査有
91	※山下竜也, 寺島健志, <u>金子周一</u> 肝内進行肝細胞癌治療における5-FUリザーバー肝動注化学療法に関する検討 福岡 総会 日本消化器関連学会週間(JDDW) 示説(ポスター) 2017/10/12 審査有
92	※北村和哉, 林智之, <u>金子周一</u> 重症潰瘍性大腸炎に対するトータルマネージメント 日本消化器関連学会週間(JDDW)(福岡) 示説(ポスター) 2017/10/13 審査有
93	※高田昇, 御簾博文, 篁俊成, <u>金子周一</u> ヘパトカイン LECT2 は肝マクロファージのLPS作用増強を介してNASHの病態を増悪させる 日本消化器関連学会週間(JDDW)(福岡) 示説(ポスター) 2017/10/13 審査有
94	※砂子阪肇, 北原証明, <u>金子周一</u> 腎機能高度低下を伴う移植後C型肝炎に対するombitasvir/paritaprevir/ritonavir(OBV/PTV/r)療法の効果と安全性 日本消化器関連学会週間(JDDW)(福岡) ワークショップ口頭 2017/10/13 審査有
95	※鷹取元, 二宮致, <u>金子周一</u> 食道癌内視鏡切除後の外科手術追加の意義 日本消化器関連学会週間(JDDW)(福岡) デジタルポスターセッション口頭 2017/10/13 審査有
96	※荒井邦明, 山下竜也, 高田昇, 堀井里和, 寺島健志, 北原証明, <u>金子周一</u> 腫瘍マーカーを考慮した小型単発肝細胞癌の治療戦略 日本消化器関連学会週間(JDDW)(福岡) デジタルポスターセッション 2017/10/13 審査有
97	※北村和哉, <u>金子周一</u> 原発性胆汁性胆管炎に対するウルソデオキシコール酸とベザフィブラート併用療法の治療効果に関する組織学的因子の検討 日本消化器関連学会週間(JDDW)(福岡) シンポジウム口頭 2017/10/14 審査有
98	※酒井佳夫, 関晃弘, 持田初音, Alessandro Nasti, 吉田圭子, <u>和田隆志</u> , <u>金子周一</u> Adipose tissue derived stromal/stem cells retarded progression of hepatic fibrosis by suppressing IL17A related inflammation in early stage of NASH. AASLD(ワシントンDC, USA) 示説(ポスター) 2017/10/23 審査有
99	※平井忠幸, 草山隆志, 高島伸一郎, 加藤 武史, 村井久純, 薄井荘一郎, 古荘浩司, <u>金子周一</u> , 高村雅之, 山岸正和 Proteus 菌によるペースメーカー感染に経静脈的リード抜去術を施行した1例 日本循環器学会地方会(愛知) 口演(一般演題) 2017/11/4 審査有
100	※早川希 岡藤啓史 木村真規子 中井亮太郎 織田典明, 朝日向良朗 丹尾幸樹 北原証明 飯田宗穂 島上哲朗 鷹取元 荒井邦明 川口和紀 北村和哉 山下太郎 酒井佳夫 山下竜也 水腰英四郎 本多政夫 <u>金子周一</u> ブデゾニドで寛解導入を行った Crohn 病の 2 例 日本消化器病学会地方会(金沢) 口演(一般演題) 2017/11/5 審査有
101	※堀井里和, 山宮大典, 高田昇, 岡藤啓史, 玉井利克, 北原証明, 飯田宗穂, 島上哲朗, 鷹取元, 荒井邦明, 川口和紀, 北村和哉, 山下太郎, 酒井佳夫, 山下竜也, 水腰英四郎, 本多政夫, 二上丈夫, 高村博之, <u>金子周一</u> 診断に苦慮した腹膜中皮腫の一例 日本消化器病学会地方会(金沢) 口演(一般演題) 2017/11/5 審査有
102	※玉井利克, 朝日向良朗, 岡藤啓史, 寺島健志, 北原証明, 飯田宗穂, 鷹取元, 島上哲朗, 荒井邦明, 川口和紀, 北村和哉, 山下太郎, 酒井佳夫, 山下竜也, 水腰英四郎, 本多政夫, <u>金子周一</u> 肥厚性皮膚骨膜炎を合併した非特異性多発性小腸潰瘍症の1例 日本消化器内視鏡学会地方会(石川) 口演(一般演題) 2017/11/19 審査有
103	※早川晃, 丹尾幸樹, 寺島健志, 北原証明, 飯田宗穂, 島上哲朗, 鷹取元, 北村和也, 川口和紀, 荒井邦明, 山下太郎, 酒井佳夫, 山下竜也, 水越英四郎, 本多政夫, <u>金子周一</u> 新型胆道鏡(Spy Glass DS)での直接観察により IPNB 由来の胆管癌と診断した1例 日本消化器内視鏡学会地方会(石川) 2017/11/19 審査有
104	※船木雅也, 島上哲朗, <u>金子周一</u> アスナプレビル・ダクラタスビル療法の治療効果と非著効例に対する抗ウイルス治療に関する検討 日本肝臓学会西部会(福岡) 口演(一般演題) 2017/11/29 審査有

105	※北原証明, 水腰英四郎, <u>金子周一</u> 肝細胞癌に対する免疫治療についての検討 日本肝臓学会西部会 (福岡) 口演 (一般演題) 2017/11/30 審査有
106	※長井一樹, 水腰英四郎, <u>金子周一</u> 原発性胆汁性胆管炎に対するウルソデオキシコール酸の治療効果の予測-中沼分類と Scheuer 分類の比較- 日本肝臓学会西部会 (福岡) シンポジウム 2017/11/30 審査有
107	※越田理恵, 島上哲朗, <u>金子周一</u> 過去 12 年間の金沢市の肝炎ウイルス検診陽性者の専門医療機関受診状況調査と事後対応 日本肝臓学会西部会 (福岡) シンポジウム口頭 2017/12/1 審査有
108	※高田昇, 北原証明, 荒井邦明, 山下 竜也, <u>金子周一</u> 当科におけるルストロンボパグ導入症例の検討 日本肝臓学会西部会 (福岡) 口演 (一般演題) 2017/12/1 審査有
109	※堀井里和, 寺島健志, 北原証明, 荒井邦明, 山下竜也, <u>金子周一</u> 肝細胞癌を発症した NASH 症例の臨床および病理学的特徴 日本肝臓学会西部会 (福岡) 口演 (一般演題) 2017/12/1 審査有
110	※羽柴智美, 山下太郎, <u>金子周一</u> レゴラフェニブのソラフェニブ抵抗性肝細胞癌への作用機序の解明 日本肝臓学会西部会 (福岡) シンポジウム口演 2017/12/1 審査有
111	※庄司拓仁, 三好昌雄, 角谷学, 児山幸栄, 森脇優司, <u>山本靖彦</u> , 小山英則: マウス副腎の終末糖化産物受容体 (RAGE) はコルチコステロン分泌に關与する, 第 90 回日本内分泌学会学術集会, ロームシアター京都 (京都), 口頭, 審査有, 2017 年 4 月 21 日
112	※棟居聖一, Tarek Kamal Abouzed, <u>原島愛</u> , 山本博, <u>山本靖彦</u> : 抗炎症薬サリチル酸と抗糖尿病薬ピリドキサミンによるマウス糖尿病腎症予防効果の比較検討, 第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋国際会議場 (名古屋), ポスター, 審査有, 2017 年 5 月 19 日
113	※Nomura K, Miyashita T, Ssakai S, <u>Yamamoto Y</u> , Ohta T. Detection of circulating neutrophil extracellular traps: a potential early biomarker for liver damage induced by lipopolysaccharides. DDW2017 McCormick Place (Chicago, USA) ポスター, 審査有, 2017 年 5 月 8 日
114	※ <u>山本靖彦</u> : 糖尿病血管障害の発症進展機構, 第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋国際会議場 (名古屋), シンポジウム, 口頭, 審査有, 2017 年 5 月 19 日
115	※ <u>Harashima A</u> , Munesue S, Miura J, Uchigata Y, <u>Yamamoto Y</u> . Novel polymorphisms in promoter region of human glyoxalase 1 regulate its transcription and are associated with aging-related diseases. Keystone Symposia Conference; Aging and Mechanisms of Aging-related Diseases. パシフィコ横浜 (横浜) ポスター, 審査有, 2017 年 5 月 17 日
116	※ <u>山本靖彦</u> : 糖尿病合併症の発症進展機構-避けられない糖化反応とその細胞応答系, 第 6 回日本くすりと糖尿病学会学術集会, 星薬科大学 (東京), シンポジウム, 口頭, 審査有, 2017 年 9 月 17 日
117	※棟居聖一, Tarek Kamal Abouzed, <u>原島愛</u> , 山本博, <u>山本靖彦</u> : サリチル酸とピリドキサミンによる糖尿病腎症発症進展防止効果の検討, 第 32 回日本糖尿病合併症学会, 京王プラザホテル (東京), 口頭, 審査有, 2017 年 10 月 27 日
118	※棟居聖一, ALI HAFEZ ALI MOHAMMED EL-FAR, <u>原島愛</u> , 武内章彦, 河野修平, 田中麻莉子, 佐藤聡, 中島慎吾, 田沼靖一, <u>山本靖彦</u> : 新規 RAGE 阻害薬による線維肉腫細胞腫瘍悪性の抑制効果の検討, 第 90 回日本生化学会大会, 神戸ポートアイランド (神戸), ポスター, 審査有, 2017 年 11 月 29 日
119	※ <u>原島愛</u> , 棟居聖一, Tarek Kamal Abouzed, 河野修平, 田中麻莉子, 増尾友佑, 加藤将夫, 山本博, <u>山本靖彦</u> : Preventive effects of salicylate and pyridoxamine on the development of diabetic kidney injuries, 第 90 回日本生化学会大会, 神戸ポートアイランド (神戸), ポスター, 審査有, 2017 年 11 月 29 日

120	※棟居聖一、原島愛、武内章彦、田中麻莉子、河野修平、佐藤聡、新藤実香、中島槇吾、稲田愛、田沼靖一、山本靖彦：線維肉腫細胞の悪性化形質に及ぼす新規 RAGE 阻害薬の効果の検討，第 27 回日本メイラード反応学会年会，女子栄養大学（埼玉），口頭，審査有，2017 年 11 月 18 日
121	※河野修平、宮澤英恵、棟居聖一、原島愛、Duong Thi Minh Thoa、Nontaphat Leerach、山本靖彦：RAGE 切断を誘導する薬剤スクリーニングと疾患の制御，第 27 回日本メイラード反応学会年会，女子栄養大学（埼玉），口頭，審査有，2017 年 11 月 18 日
122	※山本靖彦：日本メイラード学会から戦略的活動の提案，第 27 回日本メイラード反応学会年会，女子栄養大学（埼玉），口頭，審査有，2017 年 11 月 18 日
123	※Yamamoto Y. NAD ⁺ biology in diabetes and its complications. NAD/CD38 A3 Meeting 2017 金沢大学（金沢）口頭，審査有，2017 年 11 月 30 日
124	※Yamamoto Y. Pattern-recognition receptor RAGE: foe or friend for life?. 1st Ghent University – Kanazawa University Joint Seminar on “Cell death modalities: regulation, phagocytosis and relevance to diseases” Fiers-Schell-Van Montagu Seminar room (Belgium) 口頭，審査有，2018 年 2 月 6 日
125	※Takei R, Miyashita T, Fushida S, Yamamoto Y, Ohta T. Antitumor effects of metformin by fine-tuning the tumor microenvironment in a surgical rat model of esophageal carcinogenesis. 1st Ghent University – Kanazawa University Joint Seminar on “Cell death modalities: regulation, phagocytosis and relevance to diseases” Fiers-Schell-Van Montagu Seminar room (Belgium) ポスター，審査有，2018 年 2 月 6 日

5. 若手研究者の派遣実績（計画）

【海外派遣実績（計画）】

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	合計
派遣人数	3 人	7 人 (3 人)	7 人 (7 人)	7 人

※当該年度は実績、次年度以降は計画している人数を記載

【本年度の海外派遣実績】

派遣者①の氏名・職名：岩田 恭宜・特任助教

（当該若手研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動）

慢性炎症から線維化に至るマウス病態モデルならびにヒト疾患例を対象とした研究を実施するため、骨髄の造血幹細胞からの preFC 細胞分化誘導機構、障害臓器への遊走機構とその制御、慢性炎症の進展と制御に関する研究を行い、最終的な臓器線維化への細胞分子基盤を解明する研究を開始した。

（具体的な成果）

派遣者①は平成 30 年 2 月 2 日に渡米し、受け入れ研究者 Vicki Kelley 教授との共同研究計画に基づき、国際共同研究を開始した。担当研究者がハーバード大学を訪問し、派遣者①と Vicki Kelley 教授とで研究打ち合わせを行った。腸内はじめ口腔内、皮膚などの細菌叢のメタゲノム解析もあわせて行う実験計画について議論し、細菌叢と慢性炎症・線維化との関連性を解明する研究にも着手する予定である。

派遣先 (国・地域名、機関名、部局名、受入研究者)	派遣期間			合計
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	

米国、ハーバード大学ブリガムアンドウィメンズ病院、Renal Division、Vicki Kelley 教授	58 日	150 日	150 日	358 日
---	------	-------	-------	-------

派遣者②の氏名・職名：遠山 直志・特任助教

<p>(当該若手研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)</p> <p>骨髄由来線維化誘導細胞の臨床的意義を検証し、臨床検査診断法としての確立を目指すための研究に着手した。さらに、疾患活動性や治療反応性を反映する新規バイオマーカーとして確立や、食事や細菌叢による影響を調べるため、ヒトを対象とした介入研究をスタートする準備に入った。</p> <p>(具体的な成果)</p> <p>派遣者②は平成30年3月6日にオーストラリア入りし、受け入れ研究者 Vlado Perkovi 教授との共同研究計画に基づき、国際共同研究を開始した。担当研究者と派遣者②は、オーストラリア渡航前の平成30年2月25日に日本での学会への招待講演で訪問していた Perkovic 教授と会い事前研究打ち合わせを行った。また、担当研究者は、学会出張で平成30年3月13日にシドニー大学を訪問し、Vlado Perkovic 教授と派遣者②と研究打ち合わせを行うなど密に連携を強化した。</p>				
派遣先 (国・地域名、機関名、部局名、受入研究者)	派遣期間			合計
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
オーストラリア、シドニー大学ジョージ国際保健研究所、腎・代謝部門、Vlado Perkovic 教授	26 日	150 日	150 日	326 日

派遣者⑦の氏名・職名：原島 愛・助教

<p>(当該若手研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)</p> <p>慢性炎症から線維化に至る肥満、脂肪炎症、糖尿病などを中心的な研究対象とした研究に着手した。さらに、糖尿病状態における代謝異常に注目し、慢性炎症・線維化についての共通分子基盤を解明するプロジェクトも立ち上げている。</p> <p>(具体的な成果)</p> <p>派遣者⑦は平成30年1月27日に渡米し、受け入れ研究者 Steven E Shoelson 教授との共同研究計画に基づき、国際共同研究を開始した。主担当研究者が事前にハーバード大学ジョスリン糖尿病センターを訪問し、Steven E Shoelson 教授と Jongsoon Lee 助教授とで研究打ち合わせを行い派遣者⑦の実験計画について議論を行った。来年度以降の国際共同研究の推進をさらに推し進める。</p>				
派遣先 (国・地域名、機関名、部局名、受入研究者)	派遣期間			合計
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
米国、ハーバード大学ジョスリン糖尿病センター、Steven E Shoelson 教授	63 日	200 日	200 日	463 日

※本年度の派遣者毎に作成すること。

6. 研究者の招へい実績 (計画)

【招へい実績 (計画)】

年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	合計
招へい人数	1人	4人 (1人)	4人 (4人)	4人

※当該年度は実績、次年度以降は計画している人数を記載

【本年度の招へい実績】

招へい者② の氏名・職名：Jongsoon Lee・助教授_____

(当該研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)

脂肪炎症、糖尿病の発症・進展機序に関して、特に骨髄由来の炎症細胞に着目し、その役割や分子病態の解明を行い、同じジョスリン糖尿病センターの Steven E Shoelson 教授研究室へ派遣している派遣者⑦・若手研究者・原島愛助教の研究の進捗状況や今度の共同研究の展開について詳細な打ち合わせを行った。また同時に大学院生、若手研究スタッフ向けの特別講演・研究セミナーを行った。そして次年度以降に派遣予定の若手研究者との事前研究打ち合わせを行った。

(具体的な成果)

主担当研究者・担当研究者との密な研究打ち合わせ、特別講演・研究セミナーの実施、大学院生・医学類生との研究ディスカッションや懇談を行い、さらに国際共同研究体制を強化した。

招へい元（機関名、部局名、国名）及び 日本側受入研究者（機関名）	招へい期間			合計
	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
招へい元（ハーバード大学ジョスリン糖尿病センター、米国） 受入研究者（金沢大学・山本靖彦）	7日	10日	10日	27日

※本年度の招へい者毎に作成すること。

7. 翌年度の補助事業の遂行に関する計画

※ 補助事業が完了せずに国の会計年度が終了した場合における実績報告書には、翌年度の補助事業の遂行に関する計画を附記すること。